

ミオヤの光

本迹の巻

光明嘆徳章	一
本迹一致章	七
釈迦称名章	二〇
遮情と表徳(真と妙)	二三
摂取門	二七
三徳の光	三二

至大至永なる眞の如來は、無上の權威と無限の光明とは一切に超越し、唯一獨尊にまします。人中の大聖たる諸の佛陀等の比類にあらざるなり。

絶大絶妙の如來は、不可思議の靈徳を以て、思慮に超え言辭譬喩も及ばざる處なり。尊き號を以て其靈徳を稱するに非るよりは、之を表明するに由なし。

聖き號をもて靈徳を稱へ上らん。

法身體大にして絶對無限なり、處として實在せざる無きが故に無量光と號し上る。

智慧象大にして法界に徧し、處として照さざる無きが故に無邊光と號し上る。

解脱用大にして妙能無碍なり、處として融化せざる無きが故に無碍光と號す。

一切に超絶して最勝無比、如來の眞を顯すを無對光と名づく。

惑と業と苦の垢障を除滅して解脱靈化するを炎王光と名づく。

感覺を靈化し八面玲瓏六根を清淨にするを清淨光と名づく。

感情を融和し如來に安立し靈福を感せしむるを歡喜光と名づく。

正知見を開き靈を示し、眞理に悟合せしむるを智慧光と名づく。

意志を靈化し聖菩提心を成し、道徳行動せしむるを不斷光と號く。

如來眞境甚深難思、初心の入り難きを難思光と號す。

深秘内容自獨證知超絶言説が故に無稱光と號す。

正見を興へ佛の正道に入れ無上道に到らしむるを超日月光と號く。

其れ衆生ありて斯の靈光に感合する者は、智力と心情と意志との三能の垢質を消除して正知見を開き身と心と共に溫和柔順となりて、平和と靈福に充され、意志靈化して至善と成り、最高等なる心靈的生活を爲すに至らん。若し邪惡にして主我惡の病的

にいたり、已に三惡道に墮落するものも斯光明の縁に觸るゝことあらば、大なる慈悲によりて彼等は苦惱を休らふことを得べく頓て解脱することを得べし。

最と尊き生ける如來の大なるみ光りは顯赫にして十方のあらゆる處に照曜せざるなし。いかにとなれば、十方一切の刹土は此一眞理の爲に統治せらるればなり。

しかれば唯我今眞の如來の無上の力と光とを讚め稱へるのみにあらず、あらゆる諸の刹土の大聖たる佛陀または小聖哲人たる緣覺聲聞たちに至るまで、悉く如來の無限の力と無上の光とを稱へて讚美せざるものはなし。その所以はいかにとなれば、すべての聖賢は聖眼を開いて眞理の光の大なることを知見するが故に其靈徳を歎じて止まざるなり。

若し人ありて上に説く處の如來の無上の靈徳にましますことを聞てよりは、平常に自己を捧げて拜禮し、聖經をよみまた解説し、眞境に冥想觀念を凝らし、聖き名を稱へて聖旨の自己に實現せんことを祈念し、自を捧げて事へ上り、聖き徳を讚美し上等をもて、

至心に深く如來を信じ愛し靈に入らんと欲望して實に恭敬し無餘に無間に長時に信

念する時は、若くは頓速に若くは漸次に純熟し、一旦豁然として靈光を感じ恩寵開展することを得ん。こゝに於て天然の情操を一轉して心靈生活に入るを更生と名づく。

然してより人有爲の依身は轉せざれども神は無爲聖域に栖み遊ぶ。

ここに安立する心靈は靈氣に化せられ靈福を感じ、世の毀譽八風の爲に動かされず、如來指導の下に行動し最も高き心靈的生活を遂げん。

而して後此依身を脱する時は、正しく如來の靈界に歸入することを得。

眞理の靈體は聖徳と靈福とに充され、普賢の行願に立つて、生死の園煩惱の林に遊んで普ねく法界の衆生を度せん。乃至無上覺位には如來同化の徳として徧く十方聖賢の爲に稱讃せらるゝにあらん。

本有法身阿彌陀尊

迹を十劫に垂れ在し

本迹不二なる靈體の

無量壽王に歸命せん

本迹一致章

大事因緣經の意を案するに阿彌陀如來に本地垂迹の二身在ます。本地身とは久遠實成本有法身常住無量壽佛是なり。始もなく終もなく永恒本然にして絶對無限の靈體なり。不思議の威神力を以ての故に十方世界に徧滿し一切の有情を無上眞實の道に安住せしめ給ふ。次に垂迹身とは本有法身より一切衆生を度せんが爲に迹を垂れ給ふ。即ち久遠劫に法藏比丘と現じ無量の大願を満足し現に清淨安樂國土に在まして十方世界を照し念佛の衆生を攝取し給ふ。

本有法身より方便法身の法藏比丘と現じ十劫始成の相を示すは却て本覺常住の本佛を顯はさんが爲なり。經に無量壽佛、威神光明、最尊第一、諸佛光明、所不能及とは迹佛が本覺に還つて本迹一致の尊體を示す。即ち法藏菩薩の本地にして十方三世諸佛の法王なり。往生論註に如來に二種の法身あり、一に法性法身、二には方便法身な

り、法性法身に由て方便法身を生じ、方便法身に由て亦法性法身を出す、此二種の法身は異にして分つべからず、一にして同すべからず等。法性法身とは本有常住の無量壽佛にして方便法身とは法藏正覺の無量壽佛なり。十劫正覺は還て本有法身を顯はさん爲なり。方便法身は迷界の衆生を攝取するの誓を示し衆生をして本覺の都に歸せしむ。已に正覺の曉には本迹一體にして即ち一切諸佛の法王なり。吾曹の本尊と仰ぐ所の如來なり。迷没の衆生の爲めに垂迹身を出し本覺の許に還らしめて父子相迎の機を與へ給ふ。ア、大慈父の仁慈仰ぎても尙ほ仰ぎ頼むべきなり。

已に十劫始成は却て本覺本有の無量壽佛を彰はし給ふなり、正覺の曉には迹佛即ち本佛と不二なり。是れ即ち吾曹の本尊と仰ぐ如來に在ませり。

吾曹垂迹の十劫正覺を此界に垂れ給はずば本佛の如來の許に至りて父子相迎の期あることなし。

大慈父の慈悲深重なるを仰ぐも仰ぐべきものなり。

本迹一致章【二】

謹んで法華經壽量品の意を案するに久遠實成本有常住の無量壽佛迹を娑婆にたれ伽耶城を去ること遠からず菩提道場に於て始成を得給ひし釋迦牟尼佛も其實は久遠實成無量壽佛なることを明かし給ふ。久遠實成の無量壽佛は久遠より以來燃燈佛等の無量の諸佛と現じ年代の大小名字の不同種々無數に分れたり。然れども其實は久遠實成の無量壽佛なり。

釋迦牟尼佛と云ふも本と無量壽佛なれば久遠實成なり。また無終にして竟に滅し給ふことなし。

然るに衆生は妄想顛倒に由て見るに能はざるも如來は常住にして滅し給ふことなし。

し。

本佛の在ます寂光の淨土は無量の莊嚴常樂我淨の四法の満足する所。

本迹一致章

抑も吾曹の獨尊と仰ぎ奉つる阿彌陀如來は本一體に在ませども衆生の爲に本より迹を世に垂れ給ふが故に本迹の二身まします。本佛とは久遠實成本有常住法身無量壽佛始めもなく終りもなくまた絶對無限の靈體にして本有の大般涅槃界に在ませり。一切衆生は本有法身の分子なれども眞に背き妄に隨ひ絶對の靈界を背にして因果の世界に向ひ六道生死の中に流轉す。如來の大慈父無明常没の迷子を憐み給ひ定光佛等の佛身を現じて衆生を教化し度脱して滅度に入らせ給ふ。特に大悲の深意子を愛するの親切なるより法藏發心の身を現じて五劫に思惟し永劫に苦難偏へに迷子を救度せんが爲めなり。

謹んで法華壽量品の意を案するに吾が教主釋迦牟尼佛若くして出家し伽耶城を去ること遠からざる菩提道場に於て初めて正覺を成すと唱へらるゝと雖も其實は久遠實成本有法身常住無量壽佛にして迷没の衆生を憐れみ迹を娑婆に垂れ給へり。本地常住の無量壽佛は久遠劫より以來或は燃燈等の佛と現じ年代の大小名字の不同にて種々に身を現じて衆生を教化度脱す。十方一切世界に分化を示さる。

本佛如來は常寂光上に常樂我淨の四法莊嚴の淨土に常在して説法し給へども衆生は妄想顛倒して見るに能はず、却て劫盡きて大火に焼るべき此の界の火宅を貪ばれり又四大假和合の身を執す。此の迷子を憐れみ應化の身を娑婆界に示し給ふ。化盡きて滅度を現じ給へども其實は本地常寂光の極樂に常在して法身の諸の菩薩のために他受法樂を施し無爲涅槃に在ませば永恆に滅し給ふことなし。迷へる衆生は自ら三界の迷城に止まり順ふ者は法性常樂の靈界に歸す。

仰ぎても仰ぐべきは我慈父大悲方便

本佛とは自性天真十佛の自境界宇宙の實體本來如來の淨法身成も不成〇〇〇本來自性天真の如來である。一眞法界とも如來藏眞妙如の性ともまた六大無碍の理智不二の大日とも名づく。

法華經には久遠實成三身即一の清淨法身の如來とも名づけたり。元來宇宙の本質は如來の眞法身である。之を楞伽經には身土不二の阿彌陀極樂國と名づく。十方一切の三應も衆生も聖賢も悉くこの本體より生ずと説けり。

本佛とは學語にて眞如法性等と名づけ絶対無限平等の理性である。相待差別の萬物の爲には裏面の平等方面に外ならず。之を法性法身また本佛と名づく。永恆自存の天真佛である。

世俗に宇宙心と云ふべきもので斯る眞理は法爾法然として法界身として實存するのである。

眞神また眞如來、體あれば之に屬して自ら象なきを得ず。相ありまたこれに本來活々潑潑の體には必ず活動すべき力あり。この象と力の二屬性をもて體相力の三大となす。此三大は法爾として宇宙の實體が現象すれば自ら二面とならざるべからず。千差萬別の現象の反對なる方を平等の實相と名づく。全體の力によりて開展せられたる現象の方面に萬物を開展する。

相を云はゞ實相と現象力と云ふべく生滅と寂靜の二方面なり。生滅の現象と眞如の實相とは一體の兩方面、千差の波と一海水との異を呈す。

現象生滅の方面に生産せられたる萬類は眞を背にして塵に向ひ自然律に準へり。

生滅の世界の衆生を攝取せん爲には之に適する手段がなくてはならぬ。之を方便法身と名づく。法性自然自性には眞本より法佛の眞理と智慧と靈能とは法界に法爾として含蓄して居る。けれども自然に生得たる精神は眞に背きて塵に向つて自らこれを悟

ること能はず。

衆生の爲には方便法身の必要あり。この方便法身は本佛の眞より垂迹して如來の本質が衆生の機に相應せる身をもて衆生を度脱の道を示したまひしなり。之聖典に現はるゝ事甚だ多しと雖も通別の二つに分て悉く攝せらるゝなり。

通じて迹佛とは先づ法華の壽量品に本迹を示して本佛は久遠五百塵點劫のみならず究竟して無始無終して壽命永恆の生命にて常恒何の處にも存在するなれども衆生が無明に目しいて自分から見ざる事能はぬのである。

であるから無量劫以來何の所を撰はず機縁熟すれば當處に出現して説法教化して常に暫くも休止することなし。或時は燃燈佛と云ひ須彌燈と云ひ名字の不同と年代の不同とを以て示したるものなれども實は久遠實成の本佛である。此久遠實成の佛とは壽量窮りなく慧光照無量壽命無量劫の如來にて即ち阿彌陀如來なり。

過去無量劫前の定光佛も今現に釋迦牟尼と云ふも假の形骸には異なる如くなれども眞の如來法身には別なるものでない。

諸の聖典に擧る所の十方無量の佛刹に示現教化の諸佛賢聖は皆悉く彌陀の本願即ち目的を示さん爲の方便法身また垂迹の法身と云ふべきものである。

歴史的の釋尊にしてもよしや神話的の救濟主にしても之によりて全く衆生のために活ける宗教的關係をなす所の客體として事實的に應用せらるゝ上はまた方便法身と云はざるべからず。阿彌陀經の六方諸佛恒沙の諸佛の如きも各其國に於て彌陀の聖意を示さん爲に出たる聖者なりしと云ふことを得べし。

また楞伽に十方の諸佛菩薩聖賢變化人に至るまで皆な彌陀極樂心中より出づと。之によりて之を見れば現世界に歴史的に出たる支那の孔子ギリシャのソクラテス猶太のキリストの如き同じく凡質を越へたる如來の本質より世界質の肉を被りて出たる聖賢變化人の外にあらず。

斯く種々の名字と異にしました眞理を示すに酸甘其味を種々に異するは蓋し其時機と

處とに應ずればなり。大聖世に出で、世を救ひ衆生を利する點に至つては其機一なり。之を通じて方便法身の垂を明かす。

別して方便法身とは今經典に説く所の法藏因位の願行より十劫正覺の果上に至つては全く本覺の如來が本質は超然として因果を超へ相對を絶するも相對因果の方面に生滅し起伏する衆生を攝して解脱せしめんが爲に法藏の因位に無量の大願を起し無量劫に功を積み徳を累ねて衆生の爲に極樂無爲涅槃界の靈門を開き通入せしむ。

因圓果滿本迹一致の徳を彰はして阿彌陀如來と號すまた盡十方無礙光如來と號す。

如來はもと絶對にして因果に超絶すれども因果各自の因果に束縛せられて解脱すること能はざる衆生に對して而も因に六度萬行を積み果に法性法身に充滿せる徳性を具體的に發示す。

超絶したる絶對の眞理を相對事相に顯はし萬德莊嚴の相好と七寶莊嚴との色相は蓋し如來本質無相の相、體慧光明と一切を攝取し靈化する靈能即ち法身體相用の三大が事相に顯はれて如來相好光明普く十方法界を照して佛を念する衆生を攝取して捨てずとは蓋し絶對の眞理のみにしては相對規定の衆生を救濟すべき關係を結ぶこと能はざればなり。而して相對事相の如來と衆生の性質は對比して衆生を解脱靈化せしむ。

如來は大智慧の光明にして衆生は無明黑暗、如來は大慈悲衆生は溺苦海、眞理にして非眞を照し至善に在して衆生の罪惡を換へ至美にして衆生を穢よりのぞき如來は非善非明等の衆生に對して善の方に在して衆生は惡なり。而して衆生は己が無力罪惡を自覺して如來の眞善美に投歸没入して如來に靈化せしめんが爲のみ。

此眞理を表さんが爲に經典に四十八願をもて主觀客觀界の兩方面に所有の非眞非善非美の所謂人天の善惡國土の庵妙を選捨て人天の善と國土の美妙なるとを選び取て之を發願す。

十八願に至つては衆生各自己の我執と自己中心と肉の幸福主我とは罪惡なればこれを己を捨て全心全幅に如來を信じ愛し欲生せんとするものは之を選び取て捨てずと。

法藏酬因感果の方便法身は法性法身を示めず爲なり。本來法性法身は法爾として萬德豐備の如來なるも自境界は一度塵に由て眞に背きたる衆生には因果律を離れて相對規定を超えたる世界には關係を結ぶこと能はず、故に元來法性法身即ち本佛に備はる所の萬德を具體的に因果相對の方面に彰はして衆生を攝取するは善巧方便なり。假令法性身に萬德豐備の性德具すと云ふも之を顯動するにあらざれば性能また何の功かあらん。因に菩薩の萬行果に正覺依正の莊嚴は一々悉く法性の徳の顯現たり。

衆生はもと法身の所生なればまた之を開顯すれば佛果の性德を具すれども一たび背きて本質を亡ひたれば之を顯動すること能はず。カントが云ふ如く神の國を顯はすには無限の時間を要せざるを得ず、然れども己をすて、己に萬德顯現せる如來に歸同する時は自ら萬德現はるゝなり。

吾人の心靈には眞善美を觀念する時はこれと同化する心理性具すればなり。己を亡じて如來の慈悲を念する時吾が心慈悲となる。相好光明を念する時吾心相好光明なり。智慧を念する時我心智慧化す無礙光たり。

如來一大理性に具はる萬德を顯現して之に投せしむるにあらざれば衆生は自己の性德を顯はすこと能はず。

如來は衆生の性德を成せしめんが爲の方便法身なり。法藏の因位悲壯の願行は衆生の宗教的感情を感せしめんがため、果感淨土依正の二報の莊嚴は衆生の理想とし欲望として宗教的活動の動機となる方便法身なり。

釋迦稱名章

110

本有法身無量壽佛久遠劫に法藏比丘の大願を建て、始覺十劫の無量壽佛を示して却て本覺を彰はし久しく在て後近くは釋氏の家に降生して伽耶城正覺の釋迦牟尼佛を示現し給ふも同一の阿彌陀如來なり。法藏成佛して無限の光明と無量の壽命を證して所證の體に名けて阿彌陀と云ひ釋尊また同く無限の壽と無量光を證し給ふ。故にまた釋迦も阿彌陀如來なり。遠く往昔に能證の人を法藏と號し近く釋迦と名つたりとも所證の法體は同一の無限光と無量壽なれば何れも同く阿彌陀如來と名づくべし。法藏と釋迦とは受姓の名字にして即ち族姓の名なり。

阿彌陀とは成佛の法體なり。故に法藏の誓に永恆常在の阿彌陀の名を以て念すべきを教ゆ。釋迦成佛の日にもまた阿彌陀の名を以て念せよと示す。其所以如何となれば佛法の宗とする所、一心を横に無量の光明を以て永恆常恆の光明を證得し永恆常住の涅槃に歸越せしむるを宗教とすればなり。

若し念佛者たとひ久遠の無量壽佛を今の佛教には即ちたとひ淨土家に於て阿彌陀佛として尊影應化の相は即ち釋迦牟尼の聖影を以て阿彌陀佛と名づく。釋迦彌陀は一體の異名なれば行者本尊と表示するは即ち釋尊を以て彌陀となす。若し念佛する時は釋尊即ち阿彌陀佛なれば南無阿彌陀佛と稱へて釋迦佛を念す。寔に是れ互影して本迹一致の旨を示す。

故に吾人阿彌陀佛を念する時は釋尊の相好を念ふ。釋迦佛を稱ふるに釋尊の心たる無量光壽即ち阿彌陀佛の名字を以て稱名とす。此中に還て圓滿なる宗教意識を爲す所になり。

若し釋尊の相好を通じて無量光を念するにあらざれば何に依てか一心の標する所を得む。また釋迦を稱するに阿彌陀の名字に由らざればいかで眞實釋尊の眞理に接することを待べきぞ。智あらん者須らく此眞理を會得すべし。

111

我ら一心に佛を見んと欲して戀念止まざる時は阿彌陀佛即ち釋迦の相を以て現すべし。釋迦の所證の眞理は即ち無限光と壽となれば阿彌陀の名字を以て釋迦を念すべし。釋迦の相好を以て阿彌陀佛を想ふべし。互映して如來三身一體の眞理を標すなり。

111

遮情と表徳、眞と妙

吾國に行はれある佛教の系統は常に二方面に分れて流れつゝあり。一は形式に重きを置き他は内容に本づく。宗教の目的たる衆生の精神を無明と罪惡の素質より脱し若くは救濟して清淨と光明の方面に轉換せしむるに、衆生の罪惡を解脱し清淨無垢の靈界に歸入せしむるはいかにして罪惡の垢質を滅却すべきぞ。若し罪惡垢穢なるものが眞實の性ならば、いかにして之を滅失すべきぞ。こゝに於て天台圓教の如きは、罪福の性は、本空性なり。本來空の性なれども凡夫自ら迷ふて實と認む。故に生死に流轉す。罪福本空の眞理を體得する時は、生死も業障も本性空なるが故に圓理を悟り得る時は、無始の罪障自ら消滅せんと。天台圓教は念劫圓融し圓理を體得すれば、一念頓に圓成し佛果現前す。天台には、無明罪惡の凡夫が一念頓成をうる本因は罪福本空なる故なり。無明罪惡と及び其業報所感の世界も本空なり。故に圓理を悟れば頓成す。

111

罪性に空の故に凡夫頓に成佛すると共に善と云ひ福と云ひ妙色莊嚴の依正も共にまた本空なり。

故に天台には其方便階級の別教には成佛には無量莊嚴の依果の淨佛土を塵數の相好圓滿の佛身なれども、天台自己の圓教の成佛身土は罪障の本體と共に無性無相無爲の境と爲す。若し密教に云はしむれば天台は遮情の分齊にて凡夫が現在の境に實を執し萬事に眞理を了せざるが故に、此迷執を脱却せんが爲に、罪福苦樂淨穢共に空理を體得せしめて、佛果もまた空性無性の方面を解せしむ。最終の眞理に非ず。佛果消極の方面のみ。此には他の積極の方面、即ち如來圓滿の徳を表顯する方を發見せざるべからず。

密教の宗教觀、成佛の果相表明に○あり。密教には○の佛身及佛土一切の依正二報皆○是如來不可思議の徳相の顯現したるに外ならず。無是塵數の相好の佛身、一切衆寶莊嚴の淨土悉く如來本具の徳相の現相なり。

彌陀佛教の中に、台と密に比すべき二流あり。

他力宗の遮情の方面を眞宗と呼ぶ。即ち真空の義。妙宗と號くは是妙有の義なり。甲は佛身佛土は無形無相にして一切の相を遮す、本來佛は無相無形にして假に相を現したるもそれは只方便の相なり。經に無量不可思議の力用と不可思議の徳相の佛身無量の相好光明と衆寶莊嚴の淨土の相を説くと雖、それは只方便化土のみ。其實無上の佛身は無相無形にして、佛土は只無相無色の智慧光明のみと。

是遮情の分齊なり。佛の體と相と用とは一體の三面、本來同時同體の三方に過ぎず。眞宗の眞佛土は無相無形を相とする故にまた佛身の體もまた真空なり。無相消極の佛には、力用も其實は無ならざるべからず。佛に不可思議の大願業力ありて常に衆生を度すとはいかにならば、相と用とは一體の異方面なり。無量の徳相を具有する佛身

に於てこそ不可思議の力用大願の業力も有すべし。

本無形無相の佛に不可思議の大願力を有すとは自家撞着なり。不思議の力用あればこそ無量の相妙色莊嚴も現すべし。

殊にまた無量の妙色相好莊嚴顯現して始めて佛體の功德も有す。若し無色無相にして一切莊嚴もなき佛身佛土ならば小乘の偏眞の果位と何を選むべきぞ。

妙色の相を具せる佛に不可思議の力用を有す。

攝 取 門

如來は宇宙の根底としました萬有生起の一大原則にして一切の生命を向上し進化の終局は目的なる眞善美の極に歸趣せしむるを目的とす。佛教は世界及び一切衆生無明の爲に迷惑して眞理の歸處を覺らぬ衆生をして佛知見を開きて眞理の終局に歸趣せしむるを目的とす。

世界及び一切衆生をして終局の目的は成佛得佛して本覺に歸らしむ。已に歸趣の義の下に於て粗明し畢ぬ。

キリスト教には宇宙萬有は神の意志によりて生起し被造物は造物の聖意に背くが故に地獄闇黒に墮落し神の默示にかゝる律戒によりまた神の愛子キリストの贖罪によりて神を信する者は罪より清めらるゝが故に救靈せられ神國に生るゝをう 生天を以て歸趣とす。

佛教の小乗教には斯世界及び萬有は業力を根本として苦なり。苦の原因は集即ち煩惱なり。若し苦を出んとせば煩惱を斷し道品を修して寂靜なる涅槃を求むべし。寂滅涅槃界は是終局の歸處なりとす。

法相宗によれば一切衆生有爲生死の原因は法爾として存在せるアラヤに由る。アラヤ識が無始已來業力を以て生死の暴流に流轉して出ること能はず。若し唯識眞如の理を觀し三祇に功を積てついに八識は轉じて四智と成る。四智三身圓かに成る。

斯教に、

法身と般若と解脱の徳を以て衆生の心を撰みて靈化し終局に歸趣せしむ。一切を終局に攝取する客體の如來に三身三徳あり此を以て衆生を攝化する。

如來本一體なれども衆生を攝取し如來の聖靈態に同化せんが爲に三身と三徳を現す。三身は具體的にして三身は抽象的に示す。此三身三徳は如來の體相用の三大にして法界に周徧せる本然の性徳なり。

三身とは法身報身應身。法身とは法界一實の本體にして一切萬有を統一せる實在者一切萬法の一大原則なり。世界萬有の實體一切衆生此法身を體として此身心の所依たり。然れども無明に覆はれたる此一個の身心を我とし自性の本體を覺らず故に生死に迷没す。

一切の萬法は是に生し一切の善行此に起り一切の妙法此に則り一切の因果此を根處とす。は無上道の本元大涅槃の本體なり。

法身無量光を體得する時は無明頓に除き自己の身心本來法身の變影なるを覺る。

報身は一切萬法此に還り、一切善行こゝに圓滿し、一切の萬徳こゝに圓滿し、眞善美の極致因果こゝに究竟し、終局目的の歸する處、一切有情成佛する處、無上菩提こゝに成就し、大涅槃こゝに安住す。

報身は自受用と他受用法樂との二面ありて、自受用法樂とは如來自ら受用し玉ふ法

樂にして法界に周徧せる大智慧及び萬徳の光明と靈徳とが清淨法身に相應し太陽と光明との如し。本來清淨の本體の上に赫々たる光明の如し自然の妙樂如來自ら證得し言語道斷如來自から受用し玉ふ。他受法樂とは如來衆生の爲の故に不可思議の妙用ありて無量の色身無量の相好光明遍ねく十方を照して無量莊嚴の報土を示現して法身の菩薩の爲に微妙の法樂を受けしむ。

報身如來が衆生を攝取して其心を靈化し玉ふ相は斯の如し。斯報身佛は菩薩法眼の對象にして肉眼を以て視るべからず。所化の菩薩の觀する處菩薩の心行益々向上し靈化する時は所觀の報身佛身もいよく轉た勝妙にして若し菩薩淨心を得乃至等覺に至る時は菩薩の法身の身心も展轉して向上し隨て如來の身相もまた法界に周徧し此に至て此彼の相あること絶對の靈態に歸することを始本不二の成佛と曰ふ。

如來一切衆生の爲に眞理の目的を示さんが爲に法藏因位の本願を顯はし方便法身として贖罪的に罪惡の凡夫を救靈するに果佛の光明名號を以てす。凡夫が自己は無知無力として己を獻げて如來に歸命する時罪の我は没入して如來中の我に更生するは寔に是凡夫を最とも易行方便の妙法なり。

報身の萬徳を總括するに無量光無量壽の二徳を以てす。即ち如來の清淨法身を體とし無量無邊の聖徳光明を以て永恆不斷に活動して永久に一切衆生を無明罪惡より救靈し玉ふの義なり。

衆生心と如來の光とは相對して、本衆生心は無明なり罪惡なり譬へば月體の如し。如來心は萬徳圓滿の光明なり。衆生が己を空しくして如來心光を信念する時は其心光を被むり心光を加はるに隨て衆生の無明滅し心靈化する。益々向上するに隨て彌々心光に靈化すること新月より漸々に盈て竟に滿月と爲るが如し。其心靈開發靈化の圓滿に至て正覺を成す。法身報身の衆生に對する光明は衆生心の形式即ち理性を開明するは法身の光明にして萬徳の内容を靈化したまふは報身如來の光明なり。

應身は平等の法身が無量萬差の境界に應じて無窮の妙用を現し、此に二身あり。一

應化身、二、感應身。應化身とは法報の二身より現世界の無明と罪惡とに迷へる衆生を度せんが爲に人類に應せる身を以て示現し八相成佛して群生を救度す。

三 徳の光

如來が萬有を攝取し自己の靈徳に同化せんとするに三徳あり。一法身、二般若、三解脱。

法身無量光即ち一切衆生心を眞理に則らしむる契機なり。法身は一切萬有法の據りて則とする處萬法は之に由りて動く如是相如是性乃至因縁果報本末等しく歴然として亂れず。

法は法位に住して世間の相常住なり。四時行はれ萬物成り千差萬別を貫きて十界の依正一念三千の理性相因果の理法より乃至心と佛と衆生と三平等無差別の眞理に迷ふて衆生自から法身佛の光明を發見すること能はず無明に覆はれ心の理法に十界を具しながら無明によりて六道の因果を自からず。

個々は小法身自性に十界の性相を具し自から三惡三善の因縁によりて苦樂の果報を感ず。

一心理に善惡を具し、事に苦樂の果を造る。因果の理法は自ら作りて自得。斯の如きは無明業因によりて個々の小法身。

全體としての法身は如來の法爾の理にして衆生の眼の視覺耳の聽覺乃至一切の知覺より運動にまで乃至外界の一切の色聲等も皆法身自然の理にして眼の視覺本罪惡にあらず視は法爾の理然るに眼に視て迷ふは是本眼の非にあらず唯肉を愛する煩惱の業なり。容貌の美また罪惡にあらず之を見て惑ふ者に罪となる。一切萬有の法爾の理として顯現し。

三法の中に衆生法あり佛法あり。衆生は六道九界の中に無明未だ除かずして此中に九界十如一念三千、一念より地獄の十如と、國土と身と心とを顯現し乃至天道の國土

と身心とを造り、是一心より十界三千何れを造らんとするも一心の法に三千を現する理あり。然るに衆生無明によりて因縁に規定せられて無始已來展轉して出期あることなきは唯衆生の法により因縁を脱すること能はざればなり。佛法とは自然を超え因縁を脱して自己の目的を犠牲として眞理なる如來の目的に隨順し衆生心法を脱して佛法に歸入す。衆生心を機制我の根底たる自性の天眞の我を發見せば是眞理の我にして如來眞面目の我なり。此自性清淨にして一切萬法の一大原理なる法體を體得するを佛法と曰ふ。即ち法身無量光と自性と同一體なるを了得す。是永遠無窮の光明を以て自己の心光として萬物を照す時は萬法法身と體得する故に一切萬法を了達す。斯法身の本體は超空超時永恒心靈の光明なり。如來の本願は衆生をして自性清淨に歸趣せしむるを目的とす。一にして無量、無量にして一。故に十方三世無量諸の佛陀は唯一の法身の體なり。自から絶對なる法身を本體とし自ら之を證得せず無明業力によりて衆生法即ち自然の因縁に規定せられて九界に流轉する心佛衆生本平等無二なれども之を覺了せざるが故に衆生法によりて流轉休むことなし。

如來般若の徳一切處を照し衆生心を開發し佛知見を開きて理事萬徳を覺了せしむ。法身は如來の心體を證得せしめ般若は如來心相即ち四智の相なり。また衆生心象を開示して如來の眞理を知らしむ。

大圓鏡智は宇宙に周徧せる十方三世一切色心即ち主觀と客觀と萬象を包括し一切複雜なるを顯現せる統一的な絶對觀念態なりとす。如來鏡智は絶對觀念三世同時態なれども衆生の方面より見れば十方三世一切の色心宛然たり。若し般若の光によりて衆生のアラヤ識即ち觀念が開明する時は十方三世一切色心は悉く自己觀念内の影像なることを覺らん。

如來平等性の光によりて衆生の吾我の理性を覺る時は衆生機制我を我と謂ひたりし妄想分別の計度を自覺し今の我は因縁分別の我にして因縁を離れて實に我なし、然るに自己の本性は自性清淨にして一切萬法の本性にして平等性智なり。此平等の自性を

覺る時は一切諸佛と平等たり宇宙全一の理性たり無我の我は大我なり。

妙觀察智は平等性智全一の中に一切事々物々の相互の交渉に顯現せる智相なり。衆生の智力は事々物々に觀察し了別識知するに自然界の事物を感覺し之を判斷し了別するに過ぎず。如來の察智の光によりて衆生の六識を開發する時は法界一切萬法の體の相即し用の相入し相即相入參交無碍無盡重々佛心と衆生心と感應し衆生心に佛知見を開示し眞理を悟入せしめ乃至一塵無量刹一毛端處三世諸佛轉法輪を見る等は是妙觀察智が衆生心に加はりて成する處なり。乃至無量三昧總持等一切智恵等は是より生ず。之を衆生の六識轉じて察智と成す。

成所作智とは自然界の一切の五官の對象即ち感覺の五塵色聲香味觸の五塵分子が人の肉の五官に對しては吾人が現に感覺する處、作智によりて智慧の眼を開く時は一切の處として清淨莊嚴微妙の五塵妙を究め美を盡し限極すべからざる佛境界と感覺す。此を眼等の五識轉じて作智を成すと爲。

如來般若の德によりて衆生の心識を開發して四智を成せしむ無邊光に於て詳論せん。

次に解脫の德處として融化せざるなし。萬有生起の一切衆生の意志を解脫靈化して靈的行動せしむるにあり。

衆生の意志に有する苦惱と罪惡を脱し平和安寧としたま道德的行爲たらしむる原動力なり。

宇宙大道は自然界に行はれ、天命之を性と曰ひ性に率ふ之を道と曰ふ。宇宙大道を佛教にて阿耨多羅三藐三菩提と爲す。然るに衆生は曾て六道に輪廻し意志が我意と野卑なる自我幸福主義其意向は衆生法に隨順して佛法に背き闇黒に向ひて光明に乖きたり。こゝに於て如來應身を斯土に示現し世の光明となりて衆生に終局の歸處を教ゆ。如來は人の意志を無上菩提心を發さしむ即ち願作佛心なり。願作佛心と願度生心。願度生心とは一切衆生と共に安樂國に更生するにあり。總じて菩提心を成せしむる如來

の方は神聖と正義と恩寵とにあり。

神聖の光を意志に加ふる時は神聖は眞理にして衆生の實行意志を照して自律的に道德行爲をなさしむ。

如來の神聖は實踐を照す智慧にして如來は智慧の光を以て常恒に儼臨ましくて吾人の行爲を指導したまふことを信知する時は其照鑑の前に自ら正見と爲る故に其向ふ處自から終局の無上道に到達す。

正義は公平無私如來の聖意に隨順して正道を實踐するにあり。正義は一切の惡煩惱を排して正善に向て行動す。惡の根本は我にあり。故に私慾の我を捨て如來の聖意に隨ふことは一切の惡を捨て一切の正善に順ふの義なり。正善とは六度八正道十善等なり。斯らは私を捨てて聖意に順ふ時は自から六度八正十善等は具はるなり。全く如來の正義の加はる時は如來の聖旨を實現せんが爲に靈的行動をなすに至る。

恩寵とは如來の恩寵の一度光に背き知見の眼を失ひ罪惡となり苦惱に沈淪するを愍み大悲の本願光明名號を以て衆生の無明を照破して知見を與へ煩惱を脱して聖靈的意志とし苦惱を抜きて勝妙眞實の樂を與ふ。斯如來慈悲の光明によりて心靈復活し心的生命と爲るが故に、其恩を感じ感謝の念よりまた靈的感謝に活動するが故に自から公明正大の心となりて如來の恩に報ひ復活せられたる義務として靈的活動をなすに至る之を願作佛心と爲す。次に願度衆生心とは自己が如來の恩寵によりて無明罪惡より解脫靈化せられしが故に自己もまた佛恩に報ひんが爲に同胞たる衆生に及ばし自己の救靈せられし如く他人もまた救靈せられんことを期し、また如來の正義を被むるが故に公明正大には自他の差別なし。斯正義は自他平等の意志なり自己の聖められし如くに他を聖む。

盡未來際斯無上道心を以て如來の分身たる本務を果さんと願ふ。之を願度生心と爲す。

無邊光無碍光の下に詳論せん。